

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

本来の「ONE TEAM(ワンチーム)」

校長 澁谷 一男

『ワンチーム』にわかに課長が「言い始め」先日発表された今年のサラリーマン川柳の入選作に、こんな一句があった。

昨年の流行語大賞にも選ばれた「ワンチーム」。日本中が熱く盛り上がったラグビーワールドカップでの日本代表チームの活躍を象徴する言葉であり、当然の受賞と思われた方も多かろう。言葉の響きも美しい。しかし、この「ワンチーム」、最近、言葉だけが一人歩きしているのではないかと思うことがある。会社や組織のために、自己主張も認められず、ひたすら一丸となることを強要される、これは本来の「ワンチーム」ではない。「ワンチームになって残業しよう。」「ワンチームだから飲み会は全員参加ね。」こんなことを言った上司がいたかどうかは知らないが、先の川柳もこのような課長の姿勢を皮肉ったものなのだろう。



「ワンチーム」は、2016年にヘッドコーチに就任したジェイミー・ジョセフ氏が掲げたスローガンだと言われている。日本代表には、日本を含め7カ国の出身者がいる。この様々な国の言葉や文化が集まったチームを世界の強豪と互角に戦えるようにするために、ジョセフ氏が選手と一緒に考えたのが、このスローガンだったという。出身地、言葉、文化…、様々な背景を持ちつつも、その違いを乗り越えて一つに結束したチームこそが、日本代表が目指した「ワンチーム」なのだろう。互いの違いを認め合い、その上で自らがそれぞれの役割を自覚し、チームのために力を尽くす。「ワンチーム」は、多様性の尊重なくしては決して成り立たないものだったのだ。そして、この「ワンチーム」こそ、私たちがこれから目指すべき社会の姿なのではないか。違いを認め合い、互いに尊重し合いながら、一人一人が自己実現を図っていくことのできる社会。そんな社会をこの猿橋小学校区から発信していけたら、どんなに素晴らしいだろう。

現在、職員と共に新しい教育目標の作成に取り組んでいる。異なる意見を自由に述べ合いながら、猿橋小学校の職員集団も新年度に向けて一つになろうとしている。決して校長の独りよがりの「ワンチーム」にならぬよう銘肝せねばならない。

*教育目標については、次号でお知らせいたします。